



“命”をつなぐ “生きる”を支える  
**フードバンクぎふ**

## フードバンクぎふは、NPO法人になりました♡

昨年5月に行われた総会で、コロナ禍で生活に困窮する深刻な地域の実態から、フードバンクの果たす役割がますます重要になっていることが報告されました。

これまでフードバンクぎふの活動や事務所、倉庫、設備、水道光熱費や運送代など、ほとんど個人の善意でまかなわされてきましたが、今後の継続的な活動のために、法人化することを決議し、8月に認可され、NPO法人として新たに出発しました。

今後ともよろしくお願いします。

サポーター会員と賛助会員を募っています。あなたもぜひ会員に♪

- サポーター会員一目的に賛同し、協力する個人（年会費1000円）
- 賛助会員一目的に賛同し、賛助する個人および団体（年1口5000円）

## サポーター学習会＆交流会を開催

WAM（独立行政法人福祉医療機構助成）事業



12月5日、サポーター学習会＆交流会が行われ、会場46名、オンライン21名、合計67名が参加。岐阜県子ども家庭課の永野さんから「ひとり親や子どもの貧困」に関する県の施策について、海津市自立支援相談員岡崎さん、元名古屋市ケースワーカーの小池さんから「困ったときの生活保護」の話題が提供され、意見交流しました。

2022年1月15日 No.5  
発行：フードバンクぎふ  
連絡先：大垣市荒尾町1490-3  
☎ 0584-92-1400  
090-3383-2301（赤星）  
✉ foodbankgifu.jp@gmail.com

【振込口座】 変わりました☆彡  
△ゆうちょ銀行【店名】二四八  
【口座番号】普通3578654  
△大垣共立銀行【本店】店番001  
【口座番号】普通1810383  
◎【口座名義】はいざれも  
特定非営利活動法人フードバンクぎふ



## お米や野菜、貴重な定期的な寄付金も❤



大好評のチャーハン♪

実りの秋、今年も白鳥ファームさんからたくさん新米を寄付していただきました。またクラダシ様からは冷凍冷蔵庫2台が寄贈され、岐阜市、瑞穂市の拠点におかれました。12月には冷凍チャーハン3tもいただき、さっそく冷凍庫へ。各地域にも個配され、子ども食堂、学童保育所など関連施設へも届けられました。

また寄付金が養老町の船戸クリニック様とクラダシ様から定期的に寄せられることになり、NPO法人となったフードバンクぎふの継続的な活動へ心強い支援となります。

### 《最近の支援提供会社など》 敬称略

白鳥ファーム/クラダシ/大垣共立銀行/フードバンク愛知/セカンドハーベスト名古屋/東海コープ/コープぎふ/大光/岐阜氷菓/ミスペティ/のむみ相談所/カルビー食品/コストコホールセールジャパン/中部環境サービス/タカヨシ（イオンモールわくわく広場）/ナブテスコリンク/生長の家/垂井町の農事組合/社会福祉協議会など/個人の方々からも野菜や日用品なども

# 広がるフードバンク活動

■SMBC 日興証券×FC GIFU フードドライブが 10 月 2 日の FC 岐阜 vs FC 今治戦（長良川競技場）で行われ、集まった食品を寄付していただきました。賛同された丸順様からも社内でフードドライブを取り組まれ、段ボール 5 箱（約 51.8k）の食品も一緒に寄付がありました。 ■大垣市星和中学校 PTA でもフードドライブが取り組まれ、寄せられた食品（26k）を 11 月 6 日、事務所に届けていただきました。 ■岐阜協立大学では、12 月 23 日、学生支援で食料の無料配布と生理用品を配布しました。コロナ禍でアルバイト収入が減り、仕送りする両親も収入が減っていて大変だと訴え、特に女性の生理用品の無料配布は喜ばれました。

■瑞穂市の小学校 6 年生の子どもさんが夏休みの自由研究で SDGs について調べるなかで、フードバンクぎふに見学に来てくれました。 ■今年も高山市の個人の方から、クリスマスのお菓子、かわいい鏡餅が届き、子どもさんのいる家庭や独居の方にお渡しし、とても喜ばれました。



星和中 PTA の  
役員さんから

## 女性のつながりサポート支援事業

（岐阜県とぎふ NPO センターなどの協力）

コロナ禍で社会との絆、つながりが薄くなり、不安を感じている女性に対して、訪問したり居場所の提供を行うものです。生理用品の無料配布も行っています。フードバンクぎふは、もともと食料を個別配布しており、本部事務所を居場所として提供（毎週火・土 10~12 時）、個別配達の訪問時に声をかけて、生理用品が必要な方に配布しています。思った以上に助かるとの声が多く、経済的な負担が深刻であると感じます。



## ●年賀用のグリーティングカード

連携協定を結んでいる大垣共立銀行さんから、社員の方、ご家族の方が手作りされたすてきな年賀用グリーティングカード 200 枚をいただきました。そのカードを届けた高齢の一人暮らしの方は、「もう何年も年賀状が届くことなどなかった。近所づきあいもなく、ほんとうにうれしい」と喜ばれました。

1 月個配用の食品。お米やジュース、缶詰、ニンジン、リンゴ、お菓子も。カードをそえてお渡しました。



## ●恵那市から視察に

11/9 議会事務局の方と市会議員 16 名が視察に来られました。積極的な質問がたくさんあり、最後の副議長さんのまとめの挨拶では、「フードバンクぎふさんは、『もったいないをありがとう』という、私たちがめざす“フードロスをなくすこと”と“生活困窮者支援”両方を活動方針とされ、長年ボランティアをされていて、その経過や活動を知ることができ、とても勉強になった」と述べておられました。

## 編集後記

このところ、就職氷河期といわれた世代の女性の深刻な相談が相次いでいます。ちょうど 40~50 代、女性はもともと非正規で働く率が高いうえに不安定です。行政では子ども食堂などへの支援がやっと注目されるようになってきましたが、支援制度から届かないところに生活困窮者の困難があります。両親と同居、非正規で必死に働いてきた未婚女性は、親が高齢となり介護が必要となったり、亡くなると、親の年金や収入で支えあってきた生活は、あっという間に壊れてしまいます。古い家だけはあるけれど、この雪の中、暖房器具もなく、中には所持金が 100 円前後というケースもありました。社会から取り残されたような孤独な姿に胸が痛みます。すべての人人に人間らしい生活を、と強く願います。

